

実践のまとめ（小学部 高学年）ダイジェスト版

○ 研究サブテーマ ～ 普段の生活につながる授業実践 ～

1 今年度の取り組み

昨年度まで取り組んできた研究の積み上げの中で、

①授業づくりの中で多くの工夫が成果として挙げられ、「継続して取り組みたい。」という要望が多かった点

②個の実態にあった課題設定の重要性や評価の重要性を再確認しながら授業づくりにあたる必要がある点

更に、「これまでの研究を活かしていくために、

③「今困っていることに取り組みたい。」という教員の共通した意見がある点。

を踏まえ、今年度の研究テーマ「社会生活に生きる力を育む指導の充実」に合わせ、上記に示したサブテーマを設定し、実践研究を行った。

2 研究方法

(1)研究を進めるにあたっての基本的な考え

※以下の3点を留意し、研究を進めた。

☆教員一人が課題解決に向けて考えていくには限界がある。(⇒情報を共有すること。)

☆多くの教員が携わり多くの視点から、課題解決に向けての手立てを導き出すことが児童のQOLを高めて行くことにつながる。(「評価」を通して児童の現段階の指導おける共通理解・学びの積み上げ、新たな課題への洗い出し⇒PDCAサイクルの活用。そのために・・・)

☆各教員については、具体的な多くの実践事例に触れることにより自身の今後の指導の引き出しを増やすこと。(⇒教員としての資質向上へ。更には成果・課題を再認識し指導に反映させる。指導の反復から新たな発想が生まれる。)

(2)学部ブロックテーマ⇒自立活動・時間における指導の改善を中心とした実践研究の実施

(3)研究の流れ ⇒授業づくり・授業研究に向けての意見交換⇒授業研究、研究協議⇒研究のまとめ

3 実践報告(自立活動指導案「ボール運びと缶積みゲーム」から抜粋)

・児童同士のコミュニケーションに焦点を当てて学習指導に取り組む。

「友だち同士で言葉をかけあって協力しながら一つのことを達成する経験を通して、協力することや言葉をかけあうことの大切さを伝えていく」ことをねらいとし、「児童同士がやりとりを行える環境を整えることや、活動を終えるごとに振り返りを行い成功と失敗の原因を理解することにつながる」ことを目標としていた。

・ 研究授業に至るまでの意見交換では多くの改善点の変化

(10月・ビデオ視聴による意見交換)

(意見交換から出た課題)

- ・子ども同士からのやりとりが少ない。
- ・会話を引き出すための工夫が必要。
- ・意図的に会話のやりとりができる場面の設定が必要。



(11月・ビデオ視聴による意見交換)

(11月の意見交換から出た課題)

- ・ルールにとらわれてしまい、子どもの活動が主体的でなくなっている。
- ・楽しみながら活動する雰囲気作りに留意する必要がある。
- ・TTの良さを生かすために……。

一回目の意見交換では、●「児童同士コミュニケーションをねらいとした授業にもかかわらず児童同士のやりとりする場面が少ないこと。」●「取り組む活動に対しての難易度が適切であったかどうか。(活動への意欲を湧かせるために)」●「児童に対しての ST の働きかけ」などが課題として挙げられ、授業を展開していく中で個々の児童の実態を踏まえ、その場面でどのような児童の活動を期待し、そのためにどのような個々の支援が必要かなど再度検討することが求められた。

二回目の意見交換では、●「ルールにとらわれてしまい、子どもの活動が主体的でなくなってしまうこと」●「楽しみながら活動する雰囲気作りに留意する必要があること。など、児童が主体的に活動するために、「自分たちが話し合いで決めること・選ぶこと」「競争して楽しむこと」ができる活動の場面の設定の工夫を求めた。

◎ 研究協議より(12月)

(1) 今回の研究授業の授業改善点

- ・「児童が選択すること」の場面の設定
⇒相手に合わせ、受け入れる中でキーワードとなる言葉の表出が見られるようになった。
- ・活動を「チーム対抗」にする場面の設定
⇒児童同士で声を掛けあう様子が見られるようになり、活動が盛り上がるようになった。缶が倒れないように押さえるなど自発的な行動も出てきた。

(2) 更に授業をよくするために(課題点)

- ・子どもたちが考えて動ける環境を整える。⇒言葉かけを厳選し、児童の自発的な言葉を拾う。
- ・視覚支援教材の作成と工夫。(ルールの説明・カードの大きさ等)
- ・個々の児童の実態に合わせた授業づくりの再考。(個別の内容を取り入れる時間の設定等)
- ・ゆとりを持った授業展開。⇒個々の実態を考慮し、活動内容を絞る。

(視点)

「何のために」「何を」「どのように学ばせるか」

授業づくりの再考

4まとめと今後の課題

(1) 今年度のまとめ

次年度以降からの学部研究につなげるべく、将来を見据え、「日常生活の指導の場面が、各教科のどの場面と横断的につながっていくのか。」を意識することを目指した取り組みを今年度は進めてきた。

授業の展開と検討の場を設定し意見を出し合うことで共通の理解を図り、深めあいながら進めることができた。

○コミュニケーション面を課題とした児童の授業展開について

活動場面における児童の実態や課題等を具体的に書き出し、学年やブロックで共有することで共通した課題やねらいを整理することができた。その中で、活動場面における児童自身の言葉による主体的な働きかけの少なさや会話によるコミュニケーション場面の設定の難しさが挙げられた。また、児童や課題に対するアプローチとして題材の設定や自発的な会話が生まれるような楽しく活動出来る環境作り、教材の工夫といったアイデアを出し合うきっかけとすることもできた。児童が見通しを持ちながら安心してお互いがコミュニケーションをとれるための授業づくりに留意し、授業改善を今年度は進めることができた。